



# 地元企業への事業支援記録 2016～2019

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会





日立ハイテクサイエンス小山事業所  
生物多様性保全・回復事業

# JHEP認証事業支援の総括

2019年2月

## もくじ

はじめに	1
事業実施区域周辺の環境	2
JHEP認証区域と周辺の環境について	3
区域の生物多様性と人工林の植生について	3
記録した植物	4
野鳥	5
調査結果より	6
環境別記録総数の割合	6
種別記録数	7
事業所敷地の生きもの	8
人工林の伐採 2016～2017	9
人工林の伐採 2018	10
各部の全天球定点撮影	11～17
麓の雑木林について	18
ススキ草原と半自然草地について	19
ススキ草原の自然環境	19
生物多様性と評価種	20
攪乱と生物多様性	21
あとがき	22
調査記録 (植物 野鳥)	23～37

## はじめに

この報告書は、日立ハイテクサイエンス小山事業所のJHEP認証事業「小山事業所1号館エリア生物多様性プロジェクト・日立ハイテクサイエンスの森(※)」に、当会がNPO法人として協力した記録と生物多様性復元の視点から事業を検証したものです。

JHEPは(公財)日本生態系協会により欧米のHEP(Habitat Evaluation Procedures=生息地評価手順)をもとに開発され、生物多様性の価値を客観的な数値化により表し、事業による過去と将来の生物多様性の変化を定量的に評価するものです。この事業はJHEP認証制度において評価ランク(AA+)とされました。

事業は事業所敷地内の人工林の広葉樹林化と既存草地の半自然草地化により生物多様性の向上を図るというもので、目標とする植生は、クヌギ・コナラ群集・ヤマツツジ・アカマツ群集・アズマネザサ・ススキ群集とされ、それらの評価種はニホンリス・コゲラ・シジュウカラ・コムシジ・ジャノメチョウとされています。

人工林は段階的に小面積皆伐を行ない、敷地内に生育している地域在来の植物を活用した広葉樹林化を進め、一部はウッドチップとして敷地内で利用します。西側の草原はゾーニングを行なった上で、現状の芝生地から、様々な在来の野草の広がる半自然草地へと転換するとともに、敷地内のセイタカアワダチソウ、ハルジオンなどの外来植物駆除にも取り組むとしています。

2015年、当会は小山町からこの事業への協力要請を受け、検討の結果、当会の活動とこの事業の目的が共通する部分が多く、森づくりや雑木林などは、自然環境学習フィールドとして有望であると考え、協力することを決定しました。

2016年、植物調査を10回にわたり実施し、2016年11月、植物調査報告書を提出し、本社とテレビ会議で意見交換を行ないました。

2017年～2018年、野鳥の通年調査、センサーカメラによる動物調査を実施し、伐採前の環境調査を終了し、2018年、野鳥と動物の調査記録を加えた報告書を作成提出しました。

その間、当会がこれまでに蓄積してきた知見をもとに助言、提案などを行ない、企業のホームページ資料として植物、野鳥の写真提供、事業担当者を対象に森林観察などを行ないました。

2018年までに人工林の皆伐が行われ植樹が開始されたのを機に、当会はこのプロジェクトへの支援事業を終了しました。

※ JHEPおよび本事業の審査レポートは日本生態系協会のホームページを参照

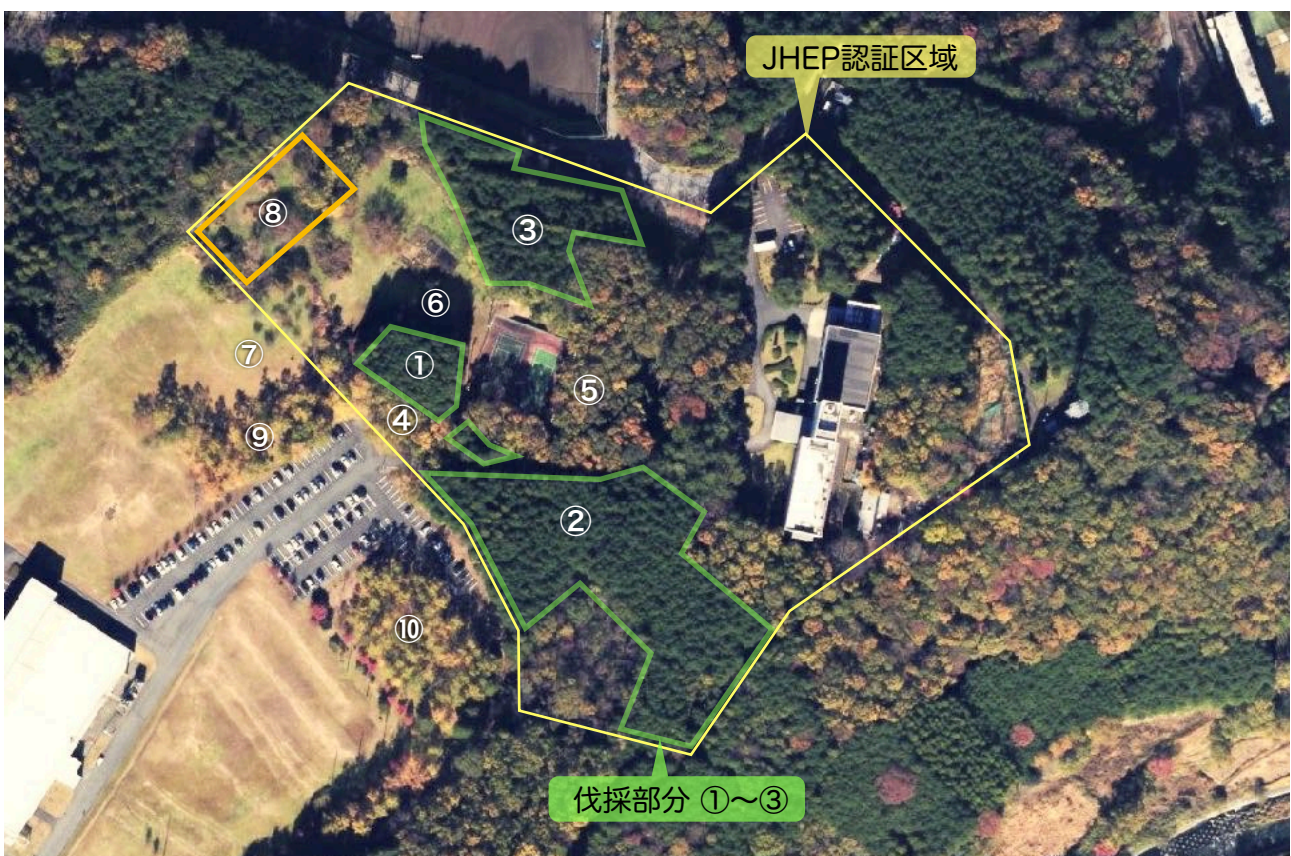
<http://www.ecosys.or.jp>



## 事業実施区域周辺の環境

黄で囲った部分が該当区域、緑は該当区域を中心に半径300m、青は半径800mです。該当区域の標高は410m。約2,700年前に富士山が山体崩壊を起こした御殿場岩屑なだれの先端近くに位置し、標高差80mの斜面の下を流れる鮎沢川を挟んで箱根山の外輪山に接しています。鮎沢川は相模湾に向かって北方向に流れ、川の周辺には田畑や雑木林などの里山環境が残されており、該当区域はその里山環境と繋がっています。

尚、JHEP審査レポートでは箱根水系としていますが、富士山水系になります。





## JHEP認証区域と周辺の環境について

区域内の林の約50%が主にヒノキの人工林で、①～③が伐採予定部分、④はクヌギの林、⑤はコナラを主とした雑木林、⑥は通路と①の林縁部など、⑦は区域外の空地です。また、この事業で手を加える予定の西北端部分⑧は疎らに樹木が生えている草地です。区域の南西側に隣接している落葉樹の林⑨⑩は下草が刈られたクヌギ林です。



チドリノキ



ミツデカエデ



コブシ

## 区域の生物多様性と人工林の植生について

調査は伐採される人工林を中心に①～⑦の部分で実施し、調査面積は該当区域の約50%になります。各部分にはそれぞれ植物相の異なる林や草地が存在し、人工林の林床にも多くの植物が生育(写真)していることがわかりました。全体では生物多様性は比較的豊かであるといえます。

植物は該当区域内で428種、区域外の空地を含めると506種を記録しました。そのうち71種が外来種で、その中に要注意外来生物または侵略的外来種100が20種含まれています。

人工林の伐採により、調査を行なった該当区域部分(①～⑥)の約50%(全体の25%)の林が消失し、植物の105種が失われて生物多様性の面積と質が後退することから、当会は人工林内の樹木の一部を伐採前に移植することを提案しました。また、クヌギ、コナラの林はすでに区域内に存在しており、同じ樹種の植栽では生物多様性の質を向上させることが期待できないため、市内各地の自然度の高い雑木林の稚樹の移植などを提案しました。



## 記録した植物（記録一覧は巻末参照）

元静岡県自然環境調査委員会植物部会会員 佐藤孝敏

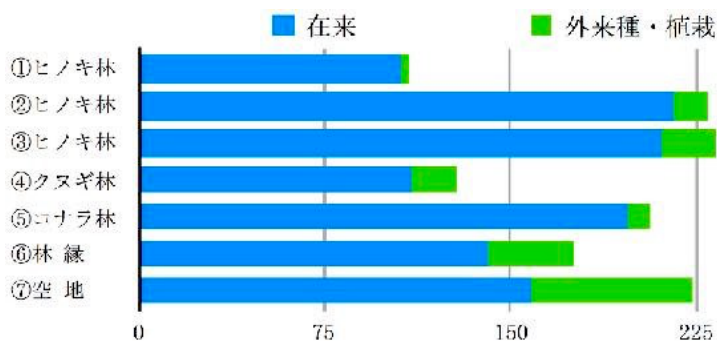
敷地内で確認された506種の内訳は、シダ植物25種類、裸子植物6種類、単子葉植物102種類、双子葉植物離弁花類250種類、同合弁花類123種類となった。帰化植物は71種類確認され、帰化率は14.0%で、広大な造成地を伴う敷地としてはその割合は低い。

レッドデータブック対象種のキンランが、⑤の林床に生育しており、④に生育するギンランとともに大切に保護したい。（キンラン：環境省：絶滅危惧Ⅱ類、静岡県：準絶滅危惧）

ヒノキ造林地を含め、周辺林地にはかつての二次林（落葉広葉樹林）の植生の面影を忍ばせる植物が数多くみられる。これらのうち、1本しか生育が確認されなかったダンコウバイ、フサザクラ、キハダ、ニガキ、ホソエカエデ、チドリノキ、ウリカエデ、コミネカエデは大切にしたい。

美しい花をつける植物として、ムラサキサギゴケ、ヤマタツナミソウ、ヤマユリ、フシグロセンノウなどがある。

外来種では県内初確認となったノハラムラサキの他、美しい花を咲かせるハナヤエムグラ、コテングクワガタ、ナヨクサフジなどが見られた。



### 在来種



キンラン

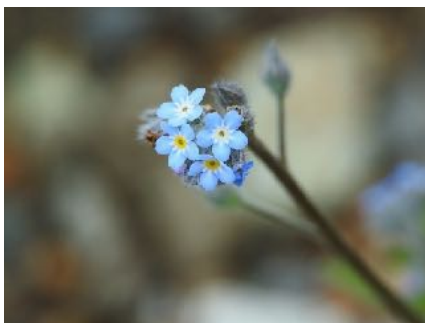


ギンラン



ヤマタツナミソウ

### 外来種



ノハラムラサキ



ハナヤエムグラ



コテングクワガタ



## 事業所敷地の生きもの

植物調査と野鳥調査の過程でノウサギの視認、タヌキの痕跡(ため糞)、イノシシの足跡、キツツキの営巣跡などを確認しました。センサーカメラにはニホンジカ、タヌキ、ノウサギ、コジュケイなどが記録され、事業所の林と周辺の里山環境が一体であることがわかります。

センサーカメラ調査 2017年4月24日～6月14日



イノシシの足跡



キツツキの巣穴



ニホンジカ



タヌキ



ノウサギ



コジュケイ

## 野鳥調査（記録詳細は巻末参照）

日本野鳥の会東富士代表 菅 常雄

本調査は事業所の自然環境整備に於いて生息する鳥類相がどのように変化していくかを確認するための基礎的資料としたい。

### 【調査地の概要】

調査地は富士山東麓に位置し、小山事業所の西側は東名高速道路、東側は酒匂川の支流の鮎沢川があり、事業所と東名高速道路の周辺は里山の原風景が広がっている。調査地の植生環境は社屋の北側は草地、東側はクヌギ林、畑、林床が笹に覆われたコナラなどの雑木林、南側はスギ、ヒノキを中心にした人工林とクヌギの雑木林で林床は笹に被われ林全体が暗い。

### 【調査方法】

調査方法はラインセンサス法で実施し、平均速度約1.0km/hの歩行速度で調査ライン両側50m以内に出現した種、個体数(上空を通過した個体を含め)を調査区域内として記録した。

### 【調査期間】

調査は繁殖期の2016年5月3日、6月3日、冬期の2016年12月2日、2017年2月28日の計4回実施した。時間帯は午後13時～15時、10倍の双眼鏡を使用した。

### 【調査箇所】（次ページ写真参照）

調査の起点から終点は、環境の違いから、No.1(草地)、No.2(畑、雑木林)、No.3(竹林、人工林)として実施した。



No. 1

守衛所から食堂の東側を通り、社屋裏の草地までの約400m



No. 2

食堂前のクヌギの林から梅林を通り、1号館の守衛所まで約300m



No. 3

1号館守衛所から1号館の裏まわりで、外周道をまわり4号館(工場)の裏口までの約400m



## 調査結果より

4回の調査で5目19科39種、316個体を確認し、当初の予想より多くの鳥類が生息していることがわかった。調査地の周辺域は広大な里山の原風景が広がる自然豊かな環境であり、冬鳥のタヒバリや繁殖期のノスリの記録は周辺の里山との関わりを示している。

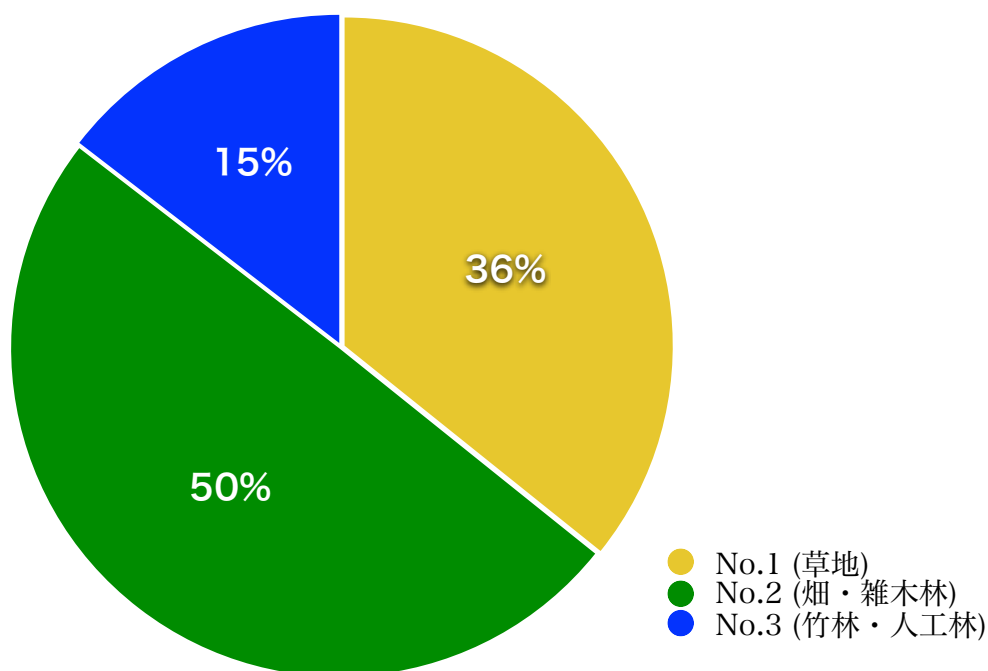
調査地No.1の草地(草原)からNo.2の梅林、畑にかけては里山環境の一部として繁殖期や起冬期の餌場となっている。

調査地No.2の畑からコナラ、クヌギを主とした雑木林までは種、個体数とも最も多く、今後の環境整備事業の中で水生昆虫類が生息できるビオトープなどの循環型の環境整備ができればさらに豊かな生物多様性を創出できるであろう。

調査地No.3の竹林・人工林で最も多く記録されたのは日本の侵略的外来種ワースト100にリストされているガビチョウであった。在来種は、種、個体数とも草地、畑、雑木林に比較して極端に少ないことがわかった。

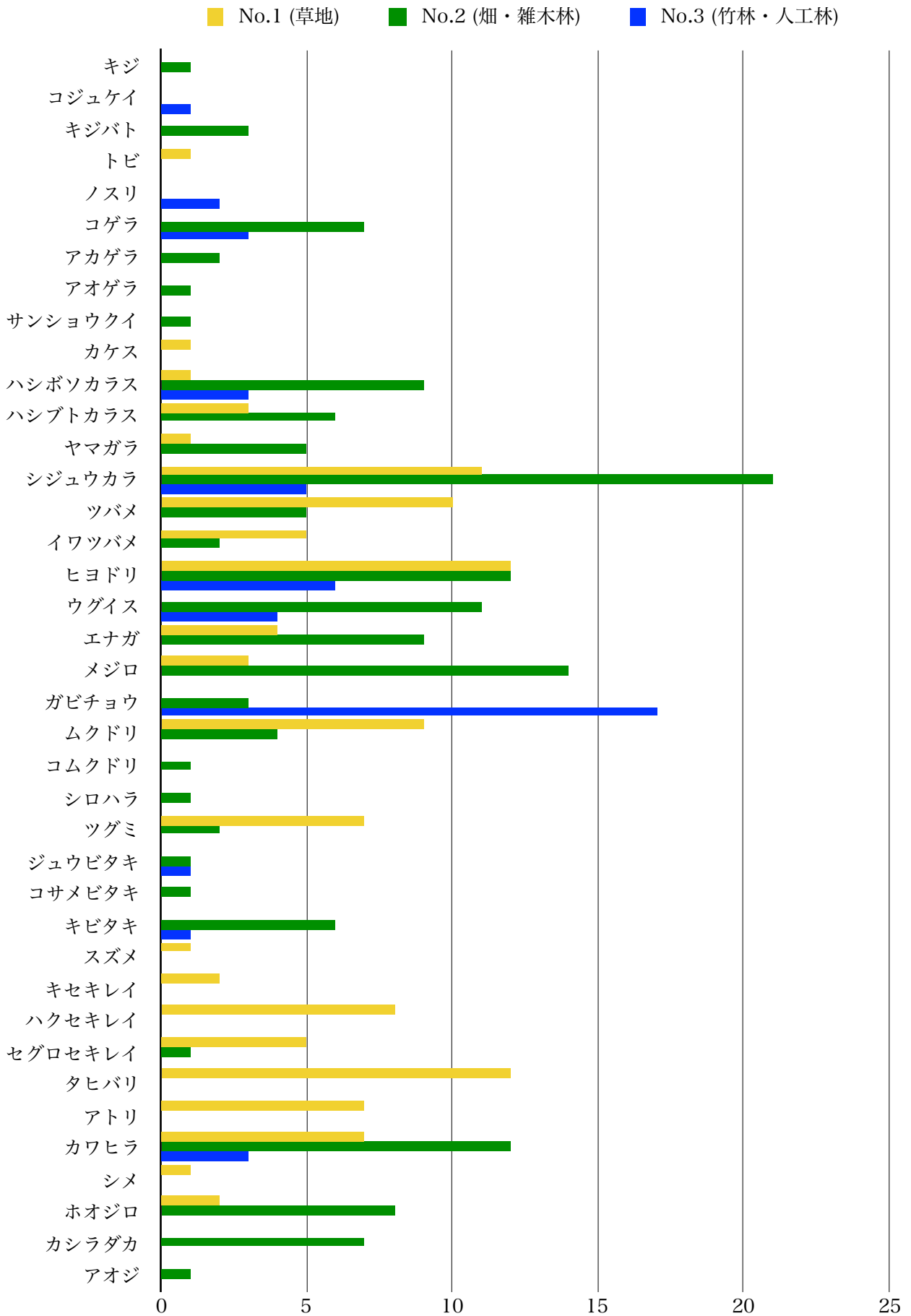
野鳥は生物多様性を表す指針である。これから長期にわたり取組む生物多様性プロジェクトの出発点でのこの調査記録が、今後の森づくりでどのように推移してゆくかが楽しみである。

環境別記録総数の割合





# 種別記録数



## 人工林の伐採 2016～2017

2016年～2017年に人工林②の伐採が行われました。そこでは伐採木の粉碎チップが広範囲に撒かれて地面を覆っていたことから、埋土種子や草本植物の芽吹きが抑制されてしまうことを指摘しました。粉碎チップは林内の歩道部分などに限って利用されるべきです。

ギンラン、ハウチャクソウなど128種を記録したクヌギ林④は下草が刈り取られて植生の多くが失われました。



2016年12月 人工林②の伐採跡と粉碎チップ



2017年6月 人工林②の伐採作業



下草が刈り取られたクヌギ林④



調査時(2016年)のクヌギ林



## 人工林の伐採 2018

2018年、人工林①③の伐採が行なわれ、林内に自生していた植物は移植されずに全て失われました。伐採跡は粉碎チップで厚く覆い、植物の芽吹きを防ぐ処理が施されました。

人工林③の伐採前(写真上=2016年)と伐採後(写真下=2018年)





## 各部の全天球定点撮影

各部分の経年変化をモニタリングするため、伐採前と伐採後に全天球(360°)定点撮影を行いました。  
全天(写真=左下)と林床(写真=右下)



①～③ 人工林 ④ クヌギ林 ⑤ コナラ林 ⑥ 人工林①の林縁





① 人工林  
2016年11月7日



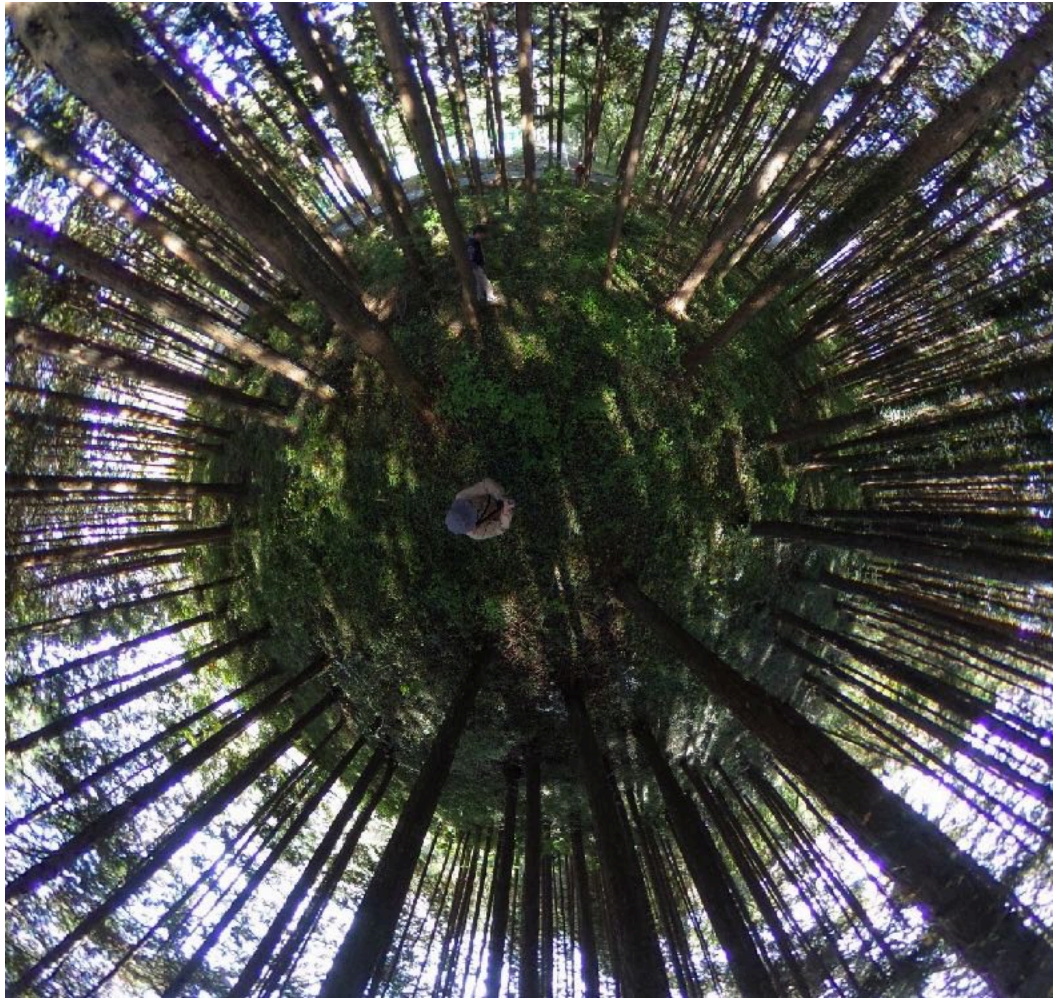
2018年11月20日



N 35°19'35.94"  
E 138°58'35.01"



② 人工林  
2016年11月7日



2018年11月20日



N 35°19'34.20"  
E 138°58'36.69"



③ 人工林  
2016年11月7日



2018年11月20日



N 35°19'37.62"  
E 138°58'37.10"



④ クヌギ林  
2016年11月7日



2018年11月20日



N 35°19'35.27"  
E 138°58'34.90"



⑤ コナラ林  
2016年11月7日



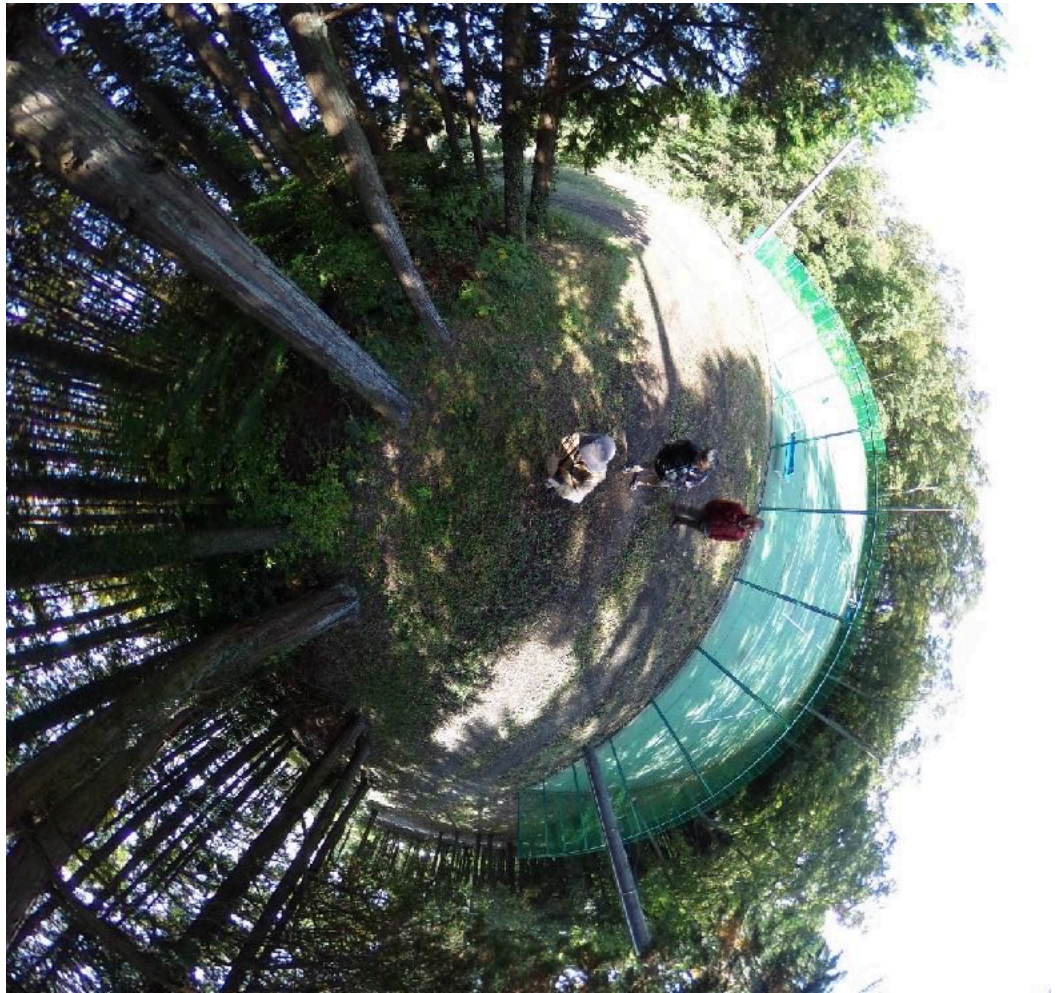
2018年11月20日



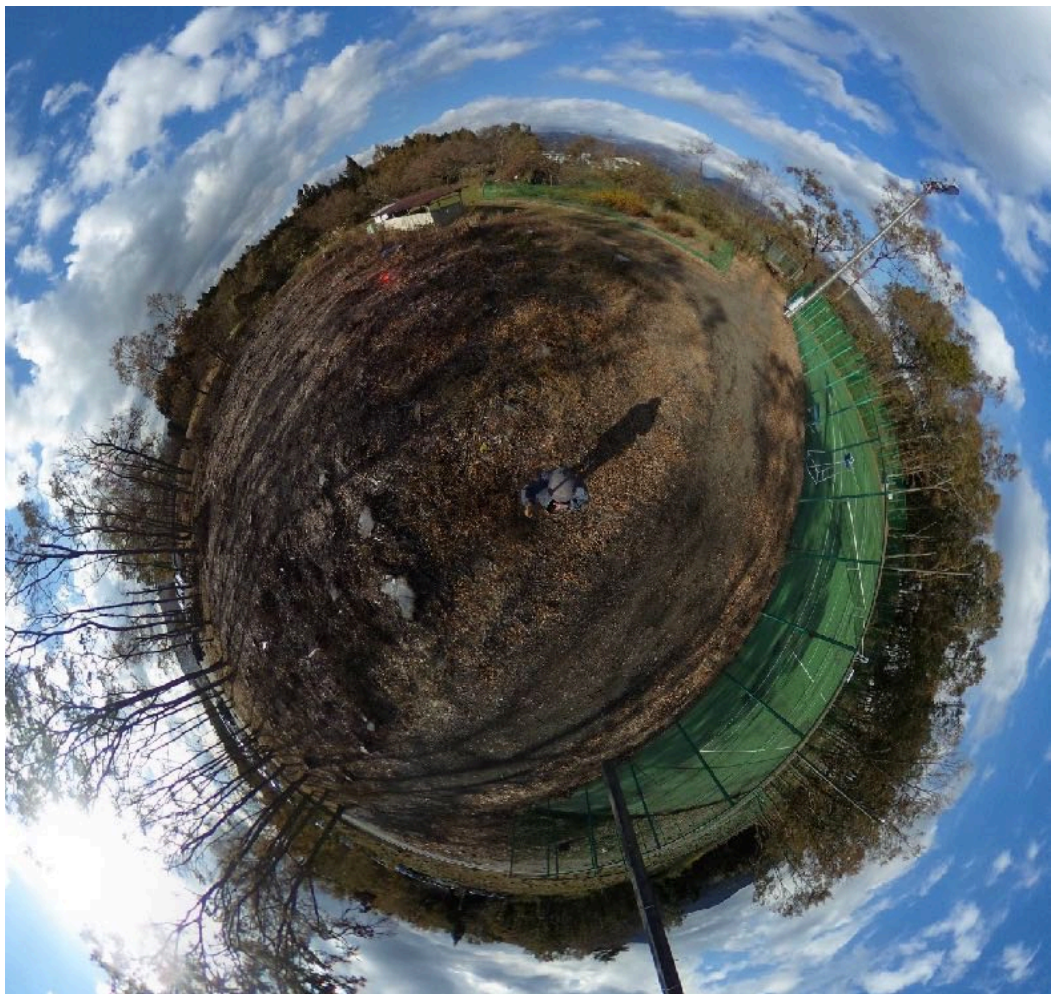
N 35°19'37.62"  
E 138°58'37.10"



⑥ 林縁  
2016年11月7日



2018年11月20日



N 35°19'35.91"  
E 138°58'36.00"



## 麓の雑木林について

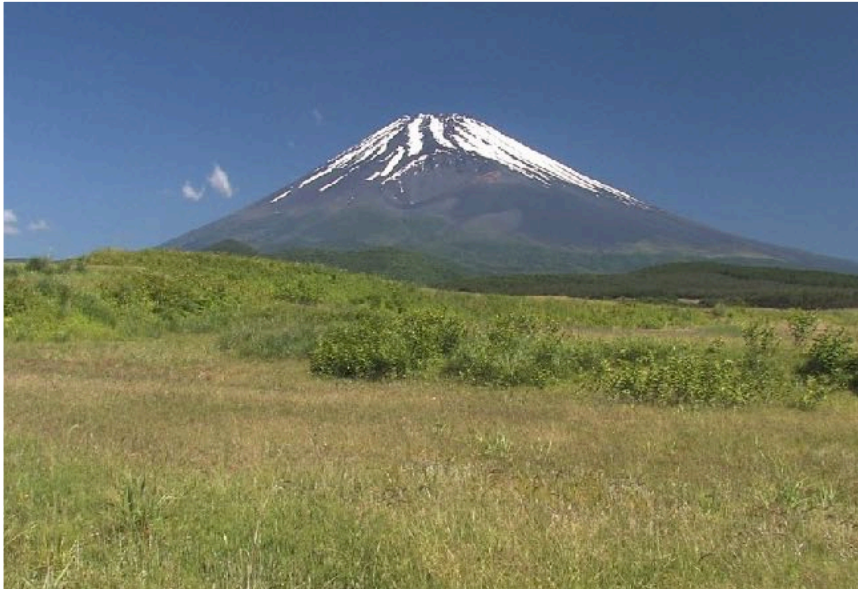
麓に現存する雑木林の形態は様々です。標高600mの雑木林（写真1）は、約300年前の宝永噴火から森が再生してゆく中で1950年代まで薪炭林として利用されてきました。高木の種類はコナラ、シデ類、カエデ類など、樹種が多く、中層、林床の植物も豊かです。林床には絶滅危惧種のキンランなども生育し、周辺にはサンコウチョウなどの野鳥も生息しています。一方、管理されているコナラ林（写真2）や事業所のクヌギ林は一見すると美しく感じますが生物多様性は乏しい林です。このことを理解していただくために雑木林の見学を提案しました。





## ススキ草原と半自然草地について

富士山の裾野には広大な東富士演習場のススキ草原が存在し、豊かな草原性の植生が保たれています。これは毎年行われる野焼きとススキの刈り採りの他、場所により異なる地質、縦横に巡らされている道路で空間が確保されることなどにより草原性の植物が生育しやすい環境となっているためです。この計画では区域の一部にススキを植栽して半自然草地を造るとされていますが、事業所はススキ草原から遠く離れており、植栽の範囲もきわめて狭いため、草原性の植物が定着できるか、また、そのような環境を維持することができるかが課題です。



## ススキ草原の自然環境

ススキ草原は野焼きにより日照が確保され、様々な植物が生育しています。植生を維持するために野焼きは欠かせません。

(写真=上からツリガネニンジン、オキナグサ、センブリ、ウメバチソウ)



## 生物多様性と評価種

かつて富士山では176種の野鳥が記録されました。同じ頃、東京周辺では200種以上が見られましたが、繁殖しているのは富士山では116種、東京周辺ではわずか30種前後でした。このことは富士山では野鳥が育雛するための昆虫類が多く、昆虫が生息するための植生が豊かだったことを示しており、観察された野鳥の種数だけでは生物多様性を推し量れないことがわかります。

林野庁の赤谷プロジェクトでは生物多様性の復元状況を把握するため、昆虫を捕食するコウモリを評価種としています。当会は植生保護区と対照区を比較するため蜘蛛を指標とする調査を計画していますが、限られた区域の正確な生物多様性を把握するためには植物調査が基本です。

この計画では野鳥、チョウなど数種を評価種に選定していますが、この区域と周辺の里山環境が連続していること考慮すると、この種だけで生物多様性を正確に評価することは難しいと思われます。

群馬県みなかみ町の国有林で行われている赤谷プロジェクト



大規模に伐採されたスギの人工林とコウモリ調査のための測定器「バットディテクター」

富士山の天然林に森林管理署、常葉大学、当会が協働で設置した植生保護柵



植生保護柵の効果を評価するための指標として蜘蛛を調査



## 攪乱と生物多様性

人工林で大規模風倒、皆伐のような攪乱が起こると、新しい空間には野鳥や風による種子散布、埋土種子の発芽などによって様々な植物が一斉に侵入して生育を始めます。1996年に台風の風倒被害を受けたヒノキ人工林跡は周辺地域で見られない植物までもが観察されるなど、生物多様性が激変しました。それらの植物はやがて消滅してゆきますが、富士山では自然攪乱、人工的攪乱から再生する植生を山体および山麓各地で観察することができます。そこからは生物多様性を創出するための多くの手がかりを得ることができます。



台風による風倒被害(2018年)

風倒被害から4～5年後に観察された植物の一部



風倒跡地



イヌショウマ



セキヤノアキチョウジ



ヤマホロシ



アケボノソウ



オオボウシバナ



コシオガマ



アブラガヤ



アレチウリ(外来種)



カワラハハコ



トモエソウ



ニガクサ



## あとがき

2010年、名古屋で開催された生物多様性条約締約国会議（COP10）※を機に、わが国でも「生物多様性」という言葉は広く知られるようになりました。しかし、富士山での環境活動の中には「生物多様性」を正しく理解していないため自然を傷つけてしまう事例がみられます。

この支援事業ではわたしたちの提案や助言は一切受け入れられませんでした。計画の進め方はJHEP認証制度の意図とも乖離し、わたしたちの考え方とも大きく食い違っていることから当会はこの支援事業を終了することを決めました。

残念な結果になりましたが、このJHEP認証事業はこれから長期にわたり継続するものです。真に生物多様性が豊かな雑木林を造ろうとするなら、事業所のみなさんには生物多様性の意味を正しく理解した上で計画に取り組んでいただきたいと思います。

この報告書にはわたしたちが地元で環境保全活動に取り組む中で見てきた生物多様性の実例も掲載しました。この報告書が生物多様性への理解と環境保全活動の一助になれば幸いです。

※ 富士山の人工林を元の森に復元するために発足した当会の前身の一部である富士山南面森林保全プロジェクト(NPO法人富士山クラブ)は、COP10で富士山の森林調査の中間報告と生物多様性保全についての課題などを発表しました。

この事業は粟井英朗環境財団助成金の一部、(一財) 印野郷土振興協会、(一財) 須山振興会、一般会員寄付金などで実施しました。

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会  
〒412-0006 静岡県御殿場市中畑1691-14  
TEL 0550-89-6905 FAX0550-73-0434  
ホームページ <http://hosigarasu.org>  
Eメール [info@hosigarasu.org](mailto:info@hosigarasu.org)



# 植物調査記録



# 日立ハイテクサイエンス小山事業所 植物目録

番号	科名	和名	備考	調査区							
				①	林縁	②	③	④	⑤	開空	
1	シダ植物										
1	ヒカゲノカズラ	マンネンスギ				○					
2		ホソバトウゲシバ				○	○				
3	トクサ	スギナ			○	○	○	○	○	○	○
4	ハナヤスリ	オオハナワラビ				○	○				○
5		ナガボノナツノハナワラビ		○		○	○			○	
6		フユノハナワラビ		○	○						
7	コバノイシカグマ	イワヒメワラビ								○	
8	オシダ	ヤブソテツ									○
9		ヤマヤブソテツ				○					
10		ベニシダ				○	○				
11		オオベニシダ				○					
12		クマワラビ				○					
13		オクマワラビ		○		○	○			○	
14		イノデ				○					
15	ヒメシダ	ハリガネワラビ				○					
16		ヤワラシダ					○				
17		ヒメシダ									○
18		ヒメワラビ	ミドリかどうか要確認→確認済(5/31)			○				○	
19		ミドリヒメワラビ	ヒメ、ミドリ両方あり			○				○	
20	イワデンダ	イヌワラビ		○	○	○	○	○	○	○	○
21		ヤマイヌワラビ				○					
22		ホソバシケシダ				○					
23		フモトシケシダ			○						
24		シケシダ		○		○	○				
25	ウラボシ	ノキシノブ					○	○	○		
2	裸子植物										
1	マツ	モミ				○	○	○			
2		アカマツ				○	○				
3	スギ	スギ		○		○	○			○	
4	ヒノキ	□ ヒノキ		○		○	○				
5	イヌガヤ	イヌガヤ		○			○			○	
6	イチイ	カヤ		○		○	○				
3	単子葉植物										
1	ユリ	ノビル			○	○	○	○	○		
2		ウバユリ		○		○	○	○	○		
3		ホウチャクソウ		○		○	○	○	○		
4		ヤマユリ				○	○			○	
5		△ タカサゴユリ							○		
6		オニユリ				○					
7		? コオニユリ?	畑の林縁側；要確認		○						
8		ヒメヤブラン			○		○	○	○	○	○
9		ヤブラン				○				○	○
10		ジャノヒゲ		○		○	○				
11		ナガバジャノヒゲ		○			○			○	
12		オオバジャノヒゲ		○		○	○			○	
13		ナルコユリ				○	○	○			
14		サルトリイバラ		○	○	○	○	○	○		
15		シオデ		○	○	○	○	○	○		
16	ヤマノイモ	ヤマノイモ			○	○	○			○	
17		ヒメドコロ					○			○	
18		オニドコロ			○	○	○	○	○	○	○
19	アヤメ	△ ニワゼキショウ	オオニワゼキショウ要確認→確認済	○				○		○	
20		△ オオニワゼキショウ	内花被片は外花被片より幅が狭い						○	○	
21		△ ヒメヒオウギズイセン					○				
22	イグサ	クサイ			○						○
23		ススメノヤリ			○	○			○		○
24		ヤマスズメノヒエ				○			○		
25		ヌカボシソウ				○			○		○

注) ●:注目種    △:帰化植物    □:植栽    ?:不明種・疑問種



番号	科名	和名	備考	①	林縁	②	③	④	⑤	開空
26	ツユクサ	ツユクサ		○	○	○	○		○	○
27	イネ	アオカモジグサ			○					
28		タチカモジ			○			○		○
29		△ コヌカグサ			○				○	○
30		ヌカボ			○	○	○	○		○
31		ウシクサ								○
32		△ <b>メリケンカルカヤ</b>	<b>要注意外来生物</b>		○			○		○
33		コブナグサ			○				○	○
34		トダシバ	要確認							○
35		キツネガヤ	トボシガラ? 要確認→7.5確認済		○	○				
36		ノガリヤス					○			
37		メヒシバ			○		○		○	○
38		アキメヒシバ			○					
39		アブラスキ					○			
40		イヌビエ								○
41		オヒシバ			○					○
42		カゼクサ								○
43		ニワホコリ								○
44		コスズメガヤ	夏に要確認→7/5確認済							○
45		△ <b>オニウシノケグサ</b>	<b>要注意外来生物、侵略的外来種100</b>					○		
46		△ ナギナタガヤ			○			○	○	○
47		トボシガラ			○	○	○	○	○	
48		ウシノシッペイ								○
49		チガヤ			○					○
50		△ <b>ネズミギ</b>	<b>要注意外来生物、侵略的外来種100</b>							○
51		イブキヌカボ	ヤマヌカボ? →勝山同定イブキ・肯首不可			○				
52		ササガヤ			○	○	○	○	○	
53		ヒメアシボソ					○			○
54		アシボソ								○
55		ススキ			○	○	○	○		○
56		タチネズミガヤ			○					○
57		ケチヂミザサ							○	○
58		コチヂミザサ		○	○	○	○		○	
59		チャボチヂミザサ					○			
60		ヌカキビ								○
61		△ ハナクサキビ								○
62		△ シマスズメノヒエ								○
63		スズメノヒエ								○
64		チカラシバ			○					○
65		マダケ	ハチクとの区別要確認→7.5確認済			○				
66		アズマネザサ			○		○		○	
67		? ハコネダケ?				○	○			
68		ネザサ						○	○	
69		ミゾイチゴツナギ			○	○	○	○	○	○
70		スズメノカタビラ								○
71		オオスズメノカタビラ			○			○	○	○
72		ハイヌメリグサ								○
73		アキノエノコログサ								○
74		キンエノコロ			○					○
75		コツブキンエノコロ					○		○	○
76		エノコログサ								○
77		ムラサキエノコログサ			○					○
78		ネズミノオ								○
79		カニツリグサ			○		○	○	○	○
80		シバ								○
81	ヤシ	シュロ		○		○	○		○	
82	サトイモ	マムシグサ(紫、緑)				○	○	○	○	
83		カラスビシャク					○		○	○
84	カヤツリグサ	アオスゲ						○		○
85		メアオスゲ			○			○		○
86		マスクサ						○		
87		ジュズスゲ								○
88		ナキリスゲ		○			○			
89		ホンモンジスゲ				○	○	○	○	

注) ●:注目種 △:帰化植物 □:植栽 ? :不明種・疑問種



番号	科名	和名	備考	①	林縁	②	③	④	⑤	開空
49		ツメクサ								○
50		△ ミシトリナデシコ								○
51		ミノフスマ			○			○		
52		コハコベ							○	
53		△ ミドリハコベ			○		○			
54	アカザ	△ アリタソウ								○
55		アカザ	あるいはシロザ？							○
56		コアカザ								○
57	ヒユ	ヒカゲイノコズチ		○	○	○	○	○	○	○
58		△ イヌビユ	種子は平滑、表面に著しい光沢あり							○
59	モクレン	ホウノキ		○		○			○	
60		コブシ		○		○	○	○	○	
61	クスノキ	ダンコウバイ	1株			○				
62		クロモジ				○	○			
63		シロダモ		○		○	○		○	
64		タブノキ		○						
65	フサザクラ	フサザクラ	1株				○			
66	キンボウゲ	ヤマトリカブト				○	○		○	
67		ボタンヅル							○	
68		コボタンヅル		○	○	○	○	○	○	
69		ハンショウヅル		○		○			○	
70		センニンソウ			○	○	○	○	○	
71		ケイツネノボタン			○			○		○
72		ウマノアシガタ						○	○	
73		キツネノボタン								○
74		アキカラマツ				○	○			
75	メギ	△ ヒイラギナンテン		○		○	○			
76		△ ホソバヒイラギナンテン				○				
77	アケビ	アケビ			○	○	○	○	○	
78		ミツバアケビ		○		○	○	○	○	
79	ツヅラフジ	アオツヅラフジ		○	○	○	○	○	○	
80	ドクダミ	ドクダミ				○				○
81	センリョウ	センリョウ				○				
82		フタリシズカ		○		○	○		○	
83	ウマノスズクサ	オオバウマノスズクサ					○		○	
84	マタタビ	サルナシ		○		○			○	
85		△ オニマタタビ(キウイノキ)					○		○	
86		マタタビ	サルナシではないか？→確認済(5/31)	○		○			○	
87	ツバキ	ヤブツバキ					○			
88		ヒサカキ		○		○	○		○	
89		ヒメシャラ		○		○	○	○		
90	オトギリソウ	オトギリソウ					○			
91		コケオトギリ								○
92	ケン	ジロボウエンゴサク					○	○	○	
93		ムラサキケマン		○	○	○	○	○	○	
94		タケニグサ				○	○			○
95	アブラナ	ヤマハタザオ			○	○		○		
96		タネツケバナ					○		○	○
97		ナズナ								○
98		イヌナズナ								○
99		△ マメグンバイナズナ	前回ナンジャモンジャだったもの							○
100		イヌガラシ			○			○		○
101		ユリワサビ		○						
102	ベンケイソウ	コモチマンネングサ		○		○	○	○	○	○
103	ユキノシタ	チダケサシ				○				
104		ウツギ		○		○	○		○	
105		マルバウツギ							○	
106		タマアジサイ							○	
107		□△ アジサイ		○		○	○		○	
108		ユキノシタ		○	○					
109		イワガラミ				○				
110	バラ	キンミズヒキ			○		○			○
111		□ カリン			○					
112		ヘビイチゴ			○			○	○	○

注) ●:注目種 △:帰化植物 □:植栽 ?:不明種・疑問種



番号	科名	和名	備考	①	林縁	②	③	④	⑤	開空
113		△ ビワ				○				
114		ダイコンソウ			○	○	○			
115		ヤマブキ	植栽からの逸出かもしれない				○		○	
116		ミツバツチグリ						○	○	
117		ヤブヘビイチゴ					○		○	○
118		オヘビイチゴ			○			○		○
119		カマツカ		○		○	○			
120		ウワミズザクラ				○				
121		マメザクラ				○	○	○		
122		□ ウメ			○					
123		□ スモモ			○					
124		ヤマザクラ		○		○				
125		□ ソメイヨシノ					○		○	○
126		モリイバラ					○			
127		アズマイバラ				○	○	○		
128		ノイバラ		○	○	○		○	○	
129		テリハノイバラ								○
130		フユイチゴ			○					
131		クサイチゴ		○		○	○			
132		ニガイチゴ				○				
133		モミジイチゴ		○		○	○		○	
134		ナワシロイチゴ			○		○	○	○	○
135		△ ユキヤナギ					○		○	
136		コゴメウツギ							○	
137	マメ	ネムノキ			○	○	○		○	
138		ヤブマメ		○	○	○	○	○	○	○
139		カワラケツメイ			○					○
140		□ ハナズオウ			○					
141		フジカンゾウ		○		○	○			
142		ヌスビトハギ				○	○		○	
143		ノササゲ				○	○		○	
144		ツルマメ			○					○
145		メドハギ			○			○		○
146		ネコハギ						○	○	○
147		マルバヤハズソウ								○
148		ヤハズソウ								○
149		クズ			○	○	○	○	○	○
150		□ ニセアカシア	要注意外来生物 侵略的外来種100			○				○
151		△ シロツメクサ			○		○	○	○	○
152		△ ムラサキツメクサ			○					○
153		△ コメツブツメクサ			○	○		○		○
154		ヤハズエンドウ						○		○
155		ナンテンハギ				○	○	○	○	
156		△ ナヨクサフジ			○					
157		ヤブツルアズキ	葉の幅広い(駐車場奥の草地)→10/7確認済		○					○
158		フジ		○		○	○		○	
159	カタバミ	カタバミ			○			○	○	○
160		アカカタバミ								○
161		△ オッタチカタバミ			○	○				○
162	フウロソウ	△ アメリカフウロ			○					
163		ゲンノショウコ			○	○	○	○		○
164		△ キバナノマツバニンジン								○
165	トウダイグサ	エノキグサ			○				○	○
166		△ コニシキソウ								○
167		△ オオニシキソウ			○		○			○
168		アカメガシワ		○	○	○	○		○	○
169		ヒメミカンソウ					○		○	○
170		コミカンソウ								○
171	ユズリハ	ユズリハ				○				
172	ミカン	コクサギ				○				
173		キハダ	1株						○	
174		ミヤマシキミ				○	○			
175		カラスザンショウ		○	○	○	○		○	
176		サンショウ		○		○	○		○	

注) ●:注目種 △:帰化植物 □:植栽 ?:不明種・疑問種



番号	科名	和名	備考	①	林縁	②	③	④	⑤	開空
177		イヌザンショウ					○			
178	ニガキ	ニガキ	1株						○	
179	ウルシ	ツタウルシ		○		○	○		○	
180		ヌルデ		○	○	○	○			
181		ハゼノキ					○			
182		ヤマハゼ	小葉は質薄く、長さは幅の3倍くらいある	○		○	○			
183		ウルシ	小葉大。ヤマウルシと要区別→確認済(5/31)	○		○			○	
184	カエデ	ホソエカエデ	1株	○		○				
185		チドリノキ	1株			○				
186		ミツデカエデ				○	○			
187		ウリカエデ	1株			○				
188		コミネカエデ	1株			○				
189		イタヤカエデ		○		○	○			
190		イロハカエデ		○		○	○		○	
191		ウリハダカエデ				○	○			
192	アワブキ	ミヤマハハソ		○		○	○			
193	ツリフネソウ	ツリフネソウ					○			
194	モチノキ	イヌツゲ		○		○	○	○		○
195		モチノキ	クロガネモチかどうか要確認→確認済			○	○			
196		□? タラヨウ?	セイヨウバクチノキに似るが蜜腺がない			○				
197		アオハダ				○	○			
198		ウメモドキ		○		○	○	○	○	
199	ニシキギ	ツルウメモドキ			○	○	○	○	○	
200		□ ニシキギ				○				○
201		コマユミ		○		○	○		○	
202		ツルマサキ		○		○	○	○	○	○
203		ツリバナ		○		○	○		○	
204		マユミ(ケナシマユミ)		○	○	○	○	○	○	○
205	ミツバウツギ	ゴンズイ					○			
206		ミツバウツギ				○				
207	クロウメモドキ	クマヤナギ				○	○		○	
208		クロウメモドキ		○		○	○			
209	ブドウ	ノブドウ		○	○	○	○	○	○	○
210		ヤブガラシ			○				○	
211		ツタ		○	○	○	○	○	○	○
212		アマヅル			○					
213		エビヅル				○	○		○	
214	シナノキ	カラスノゴマ				○	○		○	○
215	ジンチョウゲ	オニシバリ		○		○	○	○	○	
216	グミ	アキグミ		○		○	○	○	○	
217		ナツグミ				○				
218		□ ダイオウグミ			○					
219	スマレ	ヒメスマレ	駐車場の路面間隙							○
220		タチツボスマレ			○	○	○	○	○	○
221		マルバスマレ	8/5駐車場奥の草地		○	○			○	
222		スマレ								○
223		ニョイスミレ			○				○	
224	キブシ	キブシ	南東側の林縁		○					
225	ウリ	アマチャヅル		○	○	○	○		○	○
226	ミソハギ	□ サルスベリ								○
227	アカバナ	ミズタマソウ			○					
228		△ メマツヨイグサ	要注意外来生物		○	○		○		○
229		△ コマツヨイグサ	要注意外来生物							○
230		△ ユウゲシヨウ								○
231	ミズキ	アオキ		○		○	○		○	
232		ヤマボウシ				○	○		○	
233		ハナイカダ		○		○	○	○	○	
234		コバノハナイカダ		○		○			○	
235		クマノミズキ		○	○	○	○		○	○
236		ミズキ		○		○	○	○	○	
237	ウコギ	ミヤマウコギ		○		○		○	○	
238		ウド				○			○	
239		タラノキ		○		○	○			
240		キツタ		○		○	○	○	○	○

注) ●:注目種 △:帰化植物 □:植栽 ? :不明種・疑問種



番号	科名	和名	備考	①	林縁	②	③	④	⑤	開空
241	セリ	ツボクサ			○	○			○	
242		セントウソウ		○		○	○		○	
243		ミツバ			○		○			
244		ウマノミツバ			○	○	○		○	
245		ノドメ								○
246		オオチドメ			○					
247		チドメグサ						○		○
248		ヤブニンジン				○	○			
249		オヤブジラミ			○					○
250		? セリ科sp.				○				
5	双子葉植物合弁花類									
1	イチヤクソウ	イチヤクソウ		○				○	○	
2	ツツジ	ミツバツツジ			○		○			
3	ヤブコウジ	マンリョウ		○		○				
4		ヤブコウジ		○		○	○			
5	サクラソウ	コナスビ			○	○	○	○	○	○
6	カキノキ	カキノキ		○		○	○		○	
7	エゴノキ	エゴノキ		○		○	○		○	
8	モクセイ	コバトネリコ(アオダモ)				○	○			
9		ネズミモチ		○	○	○	○		○	
10		イボタノキ		○		○	○			
11		ヒイラギ				○				
12	リンドウ	リンドウ					○			
13		ツルリンドウ		○		○	○			
14	キョウチクトウ	テイカカズラ		○		○	○	○		
15	ガガイモ	カモメヅルsp.						○	○	
16	アカネ	ヒメヨツバムグラ			○			○		○
17		キクムグラ		○		○			○	
18		ヤエムグラ						○	○	○
19		ヨツバムグラ			○	○	○	○	○	○
20		ケナシヨツバムグラ						○		
21		ハシカグサ	溝(or キツネノマゴ? 要確認)→10/7確認済		○					○
22		ヘクソカズラ		○	○	○	○	○	○	○
23		アカネ		○	○	○	○	○	○	○
24	●△	ハナヤエムグラ	春先の芝地を小さな薄ピンクの花が彩る		○					○
25	ヒルガオ	ヒルガオ		○	○					○
26		マメダオシ	花時に花被片が反り返らないのでマメダオシとする							○
27		△ マルバルコウソウ								○
28	ムラサキ	ハナイバナ			○					○
29		キュウリグサ							○	○
30		△ ノハラムラサキ	静岡県新分布							○
31	クマツヅラ	ムラサキシキブ		○		○	○		○	
32		クサギ		○		○	○		○	
33	シソ	キラソウ			○			○	○	○
34		イヌトウバナ							○	
35		ナギナタコウジュ			○					○
36		カキドオシ			○	○	○		○	
37		ホトケノザ	ムギサツキの植え込み							○
38		△ ヒメオドリコソウ			○					○
39		△ マルバハッカ	畑							○
40		ヒメジソ							○	○
41		イヌコウジュ			○		○	○	○	○
42		アキノタムラソウ				○	○	○	○	
43		ヤマタツナミソウ	花の角度60度		○		○		○	
44		イヌゴマ			○					○
45		ヤマハッカ					○			
46	ナス	△ ヒメセンナリホウズキ								○
47		ヤマホロシ	マルバノホロシとの区別・要確認		○	○				
48		△ ジャガイモ		○						
49		? イヌホオズキsp.			○		○		○	○
50	ゴマノハグサ	ウリクサ								○
51		サギゴケ								○

注) ●:注目種 △:帰化植物 □:植栽 ?:不明種・疑問種



番号	科名	和名	備考	①	林縁	②	③	④	⑤	開空
52		● ムラサキサギゴケ	Grand Cover として大変美しい		○	○		○		○
53		コシオガマ			○		○			○
54		△ タチイヌノフグリ					○	○		○
55		ムシクサ								○
56		△ オオイヌノフグリ			○		○		○	○
57		●△ コテングクワガタ	春先の芝地を真珠を鑲めた様な花が彩る		○	○		○		○
58	キツネノマゴ	キツネノマゴ			○		○			○
59	ハエドクソウ	ハエドクソウ		○	○	○	○	○	○	
60	オオバコ	オオバコ			○					○
61		△ ヘラオオバコ	要注意外来生物							○
62	スイカズラ	ウグイスカグラ				○	○		○	
63		スイカズラ		○		○	○	○	○	○
64		ニワトコ		○		○			○	
65		ガマズミ		○		○	○		○	
66		ヤブデマリ				○	○		○	
67		? ヤブウツギかニシキか?	南東側の林縁		○					
68	オミナエシ	オトコエシ			○	○	○	○	○	○
69		ツルカノコソウ				○			○	
70	キキョウ	ツリガネニンジン					○		○	
71		ホタルブクロ			○	○	○	○	○	○
72		ツルニンジン					○		○	
73		タニギキョウ				○			○	
74		△ キキョウソウ			○					○
75	キク	キッコウハグマ					○			
76		△ ブタクサ	要注意外来生物							○
77		ヨモギ			○		○	○		○
78		シロヨメナ				○				
79		ノコンギク			○	○	○	○	○	
80		シラヤマギク							○	
81		△ アメリカセンダングサ	要注意外来生物		○		○			○
82		△ コセンダングサ	要注意外来生物		○					○
83		モミジガサ				○	○			
84		タイアザミ	タイアザミか要確認	○	○	○	○	○	○	○
85		△ ヒメムカシヨモギ	要注意外来生物				○			○
86		△ オオアレチノギク	要注意外来生物、侵略的外来種100		○					○
87		△ ベニバナボロギク			○		○			○
88		△ アメリカカタカサブロウ	瘦果2mm長、側面全体にこぶ状突起あり							○
89		△ ダンドボロギク			○		○			○
90		△ ヒメジョオン	要注意外来生物、侵略的外来種100		○		○	○	○	○
91		△ ハルジオン	要注意外来生物、侵略的外来種100		○		○	○		○
92		ヒヨドリバナ				○	○	○	○	
93		△ ハキダメギク					○			○
94		ハハコグサ							○	○
95		△ タチチチコグサ								○
96		チチコグサ						○		○
97		△ ウラジロチチコグサ						○		○
98		△ キクイモ	要注意外来生物		○					○
99		キツネアザミ			○					○
100		△ ブタナ	要注意外来生物							○
101		オオジシバリ				○				○
102		ニガナ					○	○	○	
103		イワニガナ					○	○		○
104		ユウガギク			○					
105		アキノノゲシ		○	○				○	
106		ホソバアキノノゲシ					○			
107		ヤマニガナ					○			
108		ムラサキニガナ	ケかどうか要確認			○				
109		ヤブタビラコ			○			○	○	
110		△ フランスギク					○	○		○
111		フキ		○	○	○		○	○	
112		コウゾリナ			○		○	○		○
113		△ ノボロギク								○
114		コメナモミ			○		○			○
115		△ セイタカアワダチソウ	要注意外来生物、侵略的外来種100		○	○	○	○		○

注) ●:注目種 △:帰化植物 □:植栽 ? :不明種・疑問種



番号	科名	和名	備考	①	林縁	②	③	④	⑤	開空
116		アキノキリンソウ?	秋に要確認				○		○	
117		△ オニノゲシ			○					○
118		ハルノノゲシ								○
—		? エゾタンポポ			○	○		○	○	
—		? ヒロハタンポポ	総苞外片の突起確認のこと→ない			○				
—		カントウタンポポ	総苞外片はエゾほど短くなく幅も狭い							○
119		△? セイヨウタンポポ?	葉は丸味があって一見」ブタナの		○			○		○
120		? タンポポsp.(カントウ?)	勝山同定→セイヨウではない						○	○
121		△ オオオナモミ	要注意外来生物 侵略的外来種100		○					
122		ヤクソウ				○	○	○		○
123		オニタビラコ			○	○	○	○	○	○

注) ●:注目種 △:帰化植物 □:植栽 ? :不明種・疑問種

### 日立ハイテクサイエンス小山事業所植物相調査結果

平成28年6月9日現在

分類群	4月26日	5月3日	5月24日	5月31日	6月9日	7月5日	7月15日	8月5日	10月7日	10月18日
1 シダ植物	12	15	19	19	20	23	24	24	24	25
2 裸子植物	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
3 単子葉植物	28	45	60	64	67	80	81	88	98	102
4 双子葉植物離弁花類	116	146	174	193	206	226	232	238	241	250
5 双子葉植物合弁花類	63	82	89	99	100	114	115	118	120	123
計	225	294	348	381	399	449	458	474	489	506
		69	54	33	18	50	9	16	14	17

#### 調査経過

1回目		2016. 4. 26	①、②、③、（開放空間）
2回目		5. 3	④、⑤、開放空間
	芝地	不明1	蕾をつけた株、何かが見当がつかない→マメグンバイナズナ(5. 24判明)
3回目		5. 24	②、④、空地
	④	不明2	葉は細かく細く、茎が直立する→キバナノマツバニンジン(6. 9判明)
4回目		2016. 5. 31	⑤、③、林縁
	③	グラジオラス?	道沿いのサクラの木の根元→ヒメヒオウギズイセン(10. 18確認)
	芝地	スミレ?	来年春要確認 (④のクヌギ林北西)
5回目		H28. 6. 9	①、開放空間
6回目		H28. 7. 5	②、林縁、開放空間
7回目		2016. 7. 15	③、開放空間
8回目		H28. 8. 5	開放空間、林縁
9回目		H28. 10. 7	開放空間、林縁、⑤
			マメダオシ…花時の花被片が反り返らない
			ヒメクグ…果苞に刺がない
			アメリカタカサブロウ…瘦果は長さ2mm、側面全体にこぶ状突起がある
			イヌビユ…種子は平滑で表面に著しい光沢がある
			アオミズ…花序に柄がある
10回目		2016. 10. 18	セイヨウバクチノキ的で蜜腺がない…南側の林縁



# 野鳥調査記録

# 鳥類生息調査集計票

調査日 2016年5月3日

種目	No. 1	No. 2	No. 3	小計	
	草地	畑・雑木林	竹林・人工林		
キジ		1		1	
コジュケイ					
キジバト			1	1	
トビ	1			1	
ノスリ			1	1	
コゲラ			2	2	繁殖
アカゲラ					
アオゲラ					
サンショウクイ					
カケス					
ハシボソガラス	1	3		4	
ハシブトガラス	1			1	
ヤマガラ		2		2	
シジュウカラ	2	5		7	
ツバメ	7	3		10	繁殖
イワツバメ	3	2		5	
ヒヨドリ	4	3		7	
ウグイス		4	2	6	繁殖
エナガ	2	2		4	
メジロ			5	5	
ガビチョウ		2	5	7	繁殖
ムクドリ	4	3		7	
コムクドリ		1		1	
シロハラ					
ツグミ					
ジョウビタキ					
コサメビタキ		1		1	
キビタキ		3		3	
スズメ					
キセキレイ	2			2	繁殖
ハクセキレイ	2			2	
セグロセキレイ		1		1	
タヒバリ					
アトリ					
シメ					
カワラヒワ	5	6		11	
ホオジロ		3		3	
カシラダカ					
アオジ					

	34	50	11	95
--	----	----	----	----



# 鳥類生息調査集計票

調査日 2016年6月3日

種目	No. 1	No. 2	No. 3	小計	
	草地	畑・雑木林	竹林・人工林		
キジ					
コジュケイ					
キジバト			1	1	
トビ					
ノスリ			1	1	
コゲラ		2	1	3	繁殖
アカゲラ					
アオゲラ		1		1	
サンショウクイ		1		1	
カケス					
ハシボソガラス		3	1	4	
ハシブトガラス		2		2	
ヤマガラ		2		2	
シジュウカラ	2	2		4	繁殖
ツバメ	3	2		5	
イワツバメ	2			2	
ヒヨドリ	2	2	3	7	
ウグイス		2		2	繁殖
エナガ					
メジロ					
ガビチョウ		1	5	6	繁殖
ムクドリ	5	1		6	繁殖
コムクドリ					
シロハラ					
ツグミ					
ジョウビタキ					
コサメビタキ					
キビタキ		3	1	4	
スズメ					
キセキレイ					
ハクセキレイ	2			2	
セグロセキレイ	3			3	
タヒバリ					
アトリ					
シメ					
カワラヒワ	2	2		4	繁殖
ホオジロ		2		2	
カシラダカ					
アオジ					

	21	28	13	62
--	----	----	----	----

# 鳥類生息調査集計票

調査日 2016年12月2日

種目	No. 1	No. 2	No. 3	小計
	草地	畑・雑木林	竹林・人工林	
キジ				
コジュケイ			1	1
キジバト			1	1
トビ				
ノスリ				
コゲラ		4		4
アカゲラ				
アオゲラ				
サンショウクイ				
カケス			1	1
ハシボソガラス		3		3
ハシブトガラス		2		2
ヤマガラ				
シジュウカラ	2	7	3	12
ツバメ				
イワツバメ				
ヒヨドリ	3	7		10
ウグイス		2	2	4
エナガ	2	5		7
メジロ		6		6
ガビチョウ			7	7
ムクドリ				
コムクドリ				
シロハラ		2		2
ツグミ	2	2		4
ジョウビタキ		1	1	2
コサメビタキ				
キビタキ				
スズメ				
キセキレイ				
ハクセキレイ	2			2
セグロセキレイ	1			1
タヒバリ	12			12
アトリ				
シメ				
カワラヒワ		4		4
ホオジロ		1		1
カシラダカ		7		7
アオジ		1		1
	24	54	16	94



# 鳥類生息調査集計票

調査日 2017年2月28日

種目	No. 1	No. 2	No. 3	小計
	草地	畑・雑木林	竹林・人工林	
キジ				
コジュケイ				
キジバト				
トビ				
ノスリ				
コゲラ		1		1
アカゲラ		2		2
アオゲラ				
サンショウクイ				
カケス				
ハシボソガラス			2	2
ハシブトガラス	2	2		4
ヤマガラ	1	1		2
シジュウカラ	5	7	2	14
ツバメ				
イワツバメ				
ヒヨドリ	3		3	6
ウグイス		3		3
エナガ		2		2
メジロ	3	3		6
ガビチョウ				
ムクドリ				
コムクドリ				
シロハラ				
ツグミ	5			5
ジョウビタキ				
コサメビタキ				
キビタキ				
スズメ	1			1
キセキレイ				
ハクセキレイ	2			2
セグロセキレイ	1			1
タヒバリ				
アトリ	7			7
シメ	1			1
カワラヒワ			3	3
ホオジロ	2			2
カシラダカ				
アオジ				
	33	21	10	64

# 鳥類生息調査合計

調査日 2016年5月3日・6月3日・12月2日  
2017年2月28日

目名	科名	種名	No. 1	No. 2	No. 3	計
			草地	畑・雑木林	竹林・人工林	
キジ目	キジ科	キジ		1		1
		コジュケイ			1	1
ハト目	ハト科	キジバト		3		3
タカ目	タカ科	トビ	1			1
		ノスリ			2	2
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ		7	3	10
		アカゲラ		2		2
		アオゲラ		1		1
スズメ目	サシショウクイ科	サンショウクイ		1		1
	カラス科	カケス	1			1
		ハシボソカラス	1	9	3	13
		ハシブトカラス	3	6		9
	シジュウカラ科	ヤマガラ	1	5		6
		シジュウカラ	11	21	5	37
	ツバメ科	ツバメ	10	5		15
		イワツバメ	5	2		7
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	12	12	6	30
	ウグイス科	ウグイス		11	4	15
	エナガ科	エナガ	4	9		13
	メジロ科	メジロ	3	14		17
	チメドリ科	ガビチョウ		3	17	20
	ムクドリ科	ムクドリ	9	4		13
		コムクドリ		1		1
	ヒタキ科	シロハラ		1		1
		ツグミ	7	2		9
		ジュウビタキ		1	1	2
		コサメビタキ		1		1
		キビタキ		6	1	7
	スズメ科	スズメ	1			1
	キセキレイ科	キセキレイ	2			2
		ハクセキレイ	8			8
		セグロセキレイ	5	1		6
		タヒバリ	12			12
	アトリ科	アトリ	7			7
		カワヒラ	7	12	3	22
		シメ	1			1
	ホオジロ科	ホオジロ	2	8		10
		カシラダカ		7		7
		アオジ		1		1
			(22種)	(29種)	(11種)	
5目	19科	39種	113	157	46	316



# 人工林伐採後の鳥類生息調査

2018.12.18 (冬期)

	目名	科名	種名	草地	森林	計
1	ハト目	ハト科	キジバト	3	2	5
2	タカ目	タカ科	トビ		1	1
3			ノスリ		1	1
4	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ		2	2
5	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	1		1
6	スズメ目	モズ科	モズ	1		1
7		カラス科	ハシボソガラス	3		3
8			ハシブトガラス	2	2	4
9		シジュウカラ科	ヤマガラ	3		3
10			シジュウガラ	2	2	4
11		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	7	11	18
12		ウグイス科	ウグイス	1	2	3
13		エナガ科	エナガ	6		6
14		メジロ科	メジロ		6	6
15		ヒタキ科	ツグミ	3		3
16			ルリビタキ	1		1
17			ジョウビタキ	2	1	3
18		セキレイ科	ハクセキレイ	2	2	4
19			セグロセキレイ	2		2
20			ビソイ	1		1
21			タヒバリ	23		23
22		アトリ科	アトリ	7		7
23			カワラヒワ	3	5	8
24		ホオジロ科	アオジ	2		2
合計				75	37	112
	5目	15科	24種	20種	12種	

5目 15科 24種

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会